

パリ通信・第131号

ジョアン・ミッチェル回顧展／モネ・ミッチェル対話展」

フランスの11月11日は「第一次世界大戦終戦記念日」祝日である。戦争は20世紀の遠い話ではなく、今日もウクライナで戦争が続いていると思うと心が痛い。一瞬にして建物や街、人をも破壊してしまう戦争がいつ終わるのか絶望的な気持ちだが、戦争で苦しむ人々を思うことぐらいしかできないことがない。目を背ける訳ではないが日常を続けるしかない。

今年の終戦記念日は金曜日で週末三連休、11月とは思えない暖かさも手伝って野外で過ごす人も多い。私も休みを利用してブローニュの森にあるルイ・ヴィトン財団で開催中の「ジョアン・ミッチェル回顧展、モネ・ミッチェル対話展」を見に行った。

さすがにルイ・ヴィトン財団のコレクションは素晴らしく、ジョアン・ミッチェルもその良き例である。

ブローニュの森にあるルイ・ヴィトン財団



日本では昨年2月大阪にオープンした「エスパス・ルイ・ヴィトン大阪」のオープニング展覧会でジョアン・ミッチェルの作品が紹介された。フランク・ゲーリー設計ブローニュの森のルイ・ヴィトン財団を意識した船舶のイメージで青木淳が設計した「エスパス・ルイ・ヴィトン大阪」。2021年2月10日から7月4日まで展示され、すでにご覧になった方も多いかも知れない。

パリのルイ・ヴィトン財団で行われている今回の展覧会は10月5日にスタートし、来年2023年2月27日までの予定である。日本と違うのは回顧展にモネとの比較が加えられた点だ。

1925年シカゴに生まれたジョアン・ミッチェル(1925-1992)は1949年ニューヨークで制作活動を始める。オランダ人でアメリカを拠点としたウイレム・デ・クーニング(1904-1997)らの「抽象表現主義」が絵画界を率いていたニューヨークで、女流画家ミッチェルの評価は早くから高かった。1950年代後半からニューヨークとパリを往復する制作活動が始まり、パリ15区フレミクール通りにアトリエを持つ。1968年パリからヴェトイユの

一軒家にアトリエを移す。セーヌ川に沿ったヴェトイユはモネが一時住んだ場所、印象派の画家たちが描いた場所である。

彼女にとってフランスは第二の故郷である。ジョアン・ミッチェルの作品は抽象画に違

モネ(上)とミッチェル(下)



ないが、今回の展覧会でモネの作品と並べて置かれると作品が語りかけてくるものに共通点が見えてくる。ジョアン・ミッチェルはクロード・モネ(1840-1926)が亡くなった翌年に生まれている。国も違えば世代も異なる。ミッチェルの抽象画とモネの作品に類似点があるとは思っていなかったが、自然を愛し、ジベルニーの庭で晩年を通して連作「睡蓮」を描き続けたモネと同じように、ミッチェルの作品も植物、花々、木々、自然を映す川の流れ、自然の風

景を通して、人の感情、感覚、記憶と言った心の奥底にある世界、宇宙との対話に導く絵画であることに気付かされた。

水の青、空の青、ひまわりの黄色、木々の緑、アガパンサスの紫、アネモネやポピーの赤、ミッチェルの色、色の調和、ニュアンスはとても美しく力強い。モネ晩年の作品がミッチェルの抽象画に受け継がれていることが理解できる。



展覧会最後の部屋にはモネの三連画「アガパンサス」(1915-1926作)がある。

(写真左古賀さんから) 1927年パリ・オランジュリー美術館に入る筈だった三連画で、理由はよく分か



ルイ・ヴィトン

新たなエスパス ルイ・ヴィトン大阪にて展覧会開催：...

大きなサイズで、力強く、美しい色である。「絵画は死と反対である。絵画は生き残ることを可能にする。絵画は生きることを可能にする。」と彼女はインタビューに答えている。第一次世界大戦で疲弊したパリの人々に心の安らぎを与えようとモネはオランジュリー美術館に連作「睡蓮」を寄贈した。愛する母や妹を亡くした時のミッチェルの作品は生きる力、色と光に満ちている。苦しんで涙する人、絶望した人に安らぎと希望を与える絵画に出逢う喜びを感じた。（古賀順子記）

らないがアメリカに渡り、現在はセントルイス美術館、ネルソン・アトキンス美術館、クレーヴランド美術館がそれぞれに所蔵している。そのモネの三連画との対話を締め括る形でミッチェルの「グランド・ヴァレー」連作21点(1983-1984年作)が素晴らしい。

ジョアン・ミッチェルの作品は二連、三連、四連画と大



それぞれ異なる色調で表現された睡蓮の池は、東に朝日が昇り、西に夕陽が沈むまでの時の流れを連想させます。

编者から

左はオランジュリー美術館の一部です。360度モネの睡蓮です。パリで私が大好きな場所でした。

モネの晩年の作品は目が見えなくなるほどに抽象的になっています。見えない本質を見ているとも言われます。最後の柳の木の絵には幹がほとんど見えないくらいです。

古賀さんは絵画にも憧憬が深く解説は奥が深いです。